

スマートフォン版も  
始めました!

スクープ!!  
週刊現代

アクセスはこちらから!  
http://wgen.jp/  
スマホ 月額315円・525円  
ケータイ 月額315円

「週刊現代」掲載の特集記事(グラビア)が  
スマホとケータイでも読むことができます!  
本誌未掲載の  
美女写真も  
モバイル限定写真館  
好評公開中



著名人が通い慣れた店を紹介  
「また楽しからずや」  
会う 食べる 飲む

※内容は一部変更になることがあります。

webでは本誌の  
厳選記事が読める!  
月額 1050円  
週刊現代オンライン  
http://online.wgen.jp/

便の際に的を外すといった  
症状が出てきます。早期に  
気づいて手術をすれば救命  
できますが、放っておくと  
危険です。頭がぼーっとし  
てきてから1週間放置して  
しまうと、手遅れになって  
しまいます(工藤医師)

## 治療法のない肺炎

最近増えているのが、一酸化炭素中毒の患者だ。練炭自殺だけでなく、自宅で炭火を使って焼き鳥をしたり、狭い茶室で湯を沸かすために火を使っている時などに起こし、病院に運ばれる人が後を絶たない。荏原病院脳神経外科部長・土居浩医師が警告する。

「人間は、血液中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度が15%で頭が痛くなって朦朧とし始め、40%を超える意識がなくなり、50%を

超えると即死してしまう可能性が高い。一酸化炭素は無色無臭のため、換気を怠ると死に至る危険があるんです。病院へ運ばれて治療し、症状が一時改善しても、その後、遅発性脳症という恐ろしい後遺症を発症することがあります」

日常生活に復帰できても2~4週間後に、言動がおかしくなったり、尿失禁や歩行障害が起きてくることがあるのだ。放置すると寝たきりになり、最悪の場合、命の危険がある。

3大死因の次に死亡者数が多い肺炎。中でも、間質性肺炎はよく知られていないうえに、決定的な治療法もない。筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター呼吸器内科教授の寺本信嗣医師が解説する。

「10万人に20人ぐらいの割合ですが、一度発症すると症状が改善することはなく、完治しません。ピルフェニドンという薬が認可されましたが、この薬を使って病気の進行を止めることはできて、根本の治療は難しい。残念ながら、現在では10年で半分が亡くなっています」

命の危険がある。肺炎のしきいである間質

という部分が厚くなっていく病気で、はじめは乾いた咳が続く、進行すると、肺の容量が少なくなると息苦しくなる。徐々に呼吸数が増えていき、息をしていること自体が苦しくなってくる。患者にとつては非常に辛い症状だ。大半は喫煙の影響が大きいとされる。

「間質性肺炎の方が喫煙されていると、肺がんのリスクが10倍にも高まるので、十分に注意してください」(寺本医師)

感染症は、ワクチンの開発や治療薬の開発によって、年々状況が好転してきている。以前は「発病=死」のイメージが強かったエイズも、予後はよくなっているという。

「HIVに感染しても、発症を抑える薬を飲めば、余命を伸ばすことができます。余命になってきました。たとえばデンマークの調査では、25歳で発病しても、C型肝炎などの他の病気を持っていない人だと、39年、つまり64歳までは生きられるというデータが出ているほどです。

また、発症すると100%死亡するとされる狂犬病も、感染しても発症前にワクチンを打てば、死を回避できる。日本では06年にフイリピンからの帰国者で感染が確認されましたが、1957年以降国内感染はありません。ですが、日本など少数の国を除いては狂犬病が蔓延しており、犬だけ